

第6回 新一般廃棄物最終処分場候補地選定委員会 会議録

1 開催日時 令和7年5月7日（水）午後3時30分から午後4時40分まで

2 開催場所 名取市役所議会棟第3・第4委員会室

3 出席者

(1) 委員

濱田 雅巳 委員（委員長）、山田 一裕 委員（副委員長）、山口 晶 委員
劉^ゆ庭^{じよん}秀^す 委員、後藤 康宏 委員

(2) 事務局（名取市）

小松生活経済部長、朽木環境共創課長、
石川環境共創課長補佐兼ごみ減量推進係長、小山ごみ減量推進係主事、
石川ごみ減量推進係主事

(3) オブザーバー

亘理名取共立衛生処理組合 山田業務課長、目黒環境衛生係長
（株）エイト日本技術開発 3名

4 会議の公開・非公開の別
公開で開催

5 傍聴者 3名

6 会議の記録方法
委員名を除いた要点筆記

7 挨拶 濱田委員長

前回同様、評価項目案について議論していただきます。用地選定にあたって、一番大きな検討要素だと思いますので、忌憚のないご意見、ご提言を頂きたい。

8 議 事

(1) 詳細調査の評価項目（案）について

資料1に基づき、事務局及び（株）エイト日本技術開発より説明。

以下、委員からの意見等

<委 員>

非常に分かりやすく整理されたと思う。最終的に総合評価をするとき、◎の数で評価するのか或いは定量的に評価するのか、どう想定しているのか。

<事務局>

定量的に示せる項目については個数で示し、定量的に示せない項目についてはコメントを付けた形で示す。そこからの総合評価及び絞り込みをかけるにあたっての方法については検討中。

<委 員>

1つの評価基準に対して、1つの項目や3つの項目が定められている点、各大項目の数及び優先順位が異なる点から評価の偏りが出てくる可能性がある。

<委 員>

最後の1個に絞るのか、可能性が高いものに絞り込むのか、委員会でどこまで進めていくのか、スタンスをはっきり示してほしい。

<委 員>

各評価項目について、重み付けをする項目が発生するのか、どのように優先順位を付けていくのか早い段階で決めていただきたい。調査等が始まってから、決めてしまうと結果ありきで、重み付けを決めたのではないかという疑いが出てしまうため。

また、名取市が住民の方々に説明するにあたって、「この項目の優先度を高く評価することで皆さんに安心安全を、或いは一般廃棄物の将来にわたる衛生的な処理を続けるんだ」という発信の、すごく大事なポイントにもなる。

<委 員>

事務局でどこまで決めるのか、委員もどこまで意見を述べていいのか分からなくなってしまうため、議論する中身に関する方向性、たたき台を作っていただきたい。

<委 員>

県の産業廃棄物最終処分場候補地選定においては条件整理と適合性の判断までは委員会で判断し、最終的な判断は行政側で引き受けていた事例はある。

<委 員>

単純に考えると、大項目の経済性が1番大きいと思う。ただ、候補地が色々ある中でそれだけで決めていいのかという部分と行政判断になる部分もあると思うので、どこかのタイミングで重み付けについて教えていただきたい。

<委員>

地盤調査をして、液状化が発生してきた場合には、概算整備費の方で算出する考え方なのか。災害危険性の方にはダブルカウントしないという考え方でいいのか。

<事務局>

ダブルカウントしないように、経済性の方で評価させていただく。

<委員>

概算整備費（評価項目）の判断について、◎○△だけでなく、「災害危険性があるため他より高くなっている」といったコメントもあった方が判断しやすいかと思う。

また、委員によって、重視する項目は変わってくるので、重み付けをするにあたって、最終的には政治的な判断で決めてもらうのがいいと思う。

<委員>

コメントを付すと◎○△の意味が分からなくなってしまう場合がある。悪いコメントが付いているのに、○になる可能性があるため、なるべく◎○△で評価すべきだと思う。コメントと◎○△を両にらみで同じ項目を評価するのはできないと思う。3段階ではなく、5段階で評価することもあるが、簡便化しないと最終的に選べない、評価がまとまらないと思う。

工事が行われた等で、元の地盤が変わってしまっている可能性があり、工事が始まってから処分場を建てれなくなってしまうと、また選定からやり直しになってしまうので、コンサルさん（㈱エイト日本技術開発）もいるので、データの活用については考える必要がある。

運搬時の住環境への影響（評価項目）で住宅・スクールゾーン・狹隘道路の3つを1つの項目に整理できればいいが、1個ずつ調査したものも作っていただきたい。

自然改変度（評価項目）の評価基準に記載の「比較的」というのは基準値となる何かがあるのか。他の項目では大小の間に平均が入っているが、この項目には無いため、平均となる値があれば、「平均」の記載が必要ではないか。

<㈱エイト日本技術開発>

5カ所の相対評価で考えており、比較的というのは、平均的という認識で問題ない。自然改変度（評価項目）に平均の記載がない点については、データのばらつきがあり、現時点で設定することは難しく、調査を進めながら設定していきたいと考えている。

<委員>

そういった説明をしたときに恣意的だと取られてしまう場合がある。調査結果が出てから評価基準を決めるというのは、少し考えていただきたい。

<委員>

◎○△で評価すると、どうしても比較的という表現しかできないと思う。なので、5段階評価にした方がよいかと思う。

<委員>

適合性を整理する段階は5段階評価をし、順位付けを行った方が分かりやすいと思う。

<委員>

順位付けを行うと、例えば2位・3位・4位の差が近くても、差がはっきり出てしまう。

<委員>

差が出てしまうので、近いものは同順位で示したらよいと思う。例えば1・3・3・4・5位といったような形で。

<委員>

それを作ることができればいいが、2位と5位の違いは何なのかや3位がない理由はなど作るのは大変だと思う。

<事務局>

5段階について意見をいただいたが、選定の段階では3段階でやらせていただきたい。

<委員>

◎が何点、△が何点という数値化は、今後しない考えなのか。

<事務局>

はい。はっきりした点数化は今後しないということで考えていた。

<委員>

市・組合として重視したいこと、項目の重み付けをお願いしたい。

1つの評価基準に対して、複数の項目がある箇所についても、それぞれ調査したデータを出していただきたい。

(コンサルに対して)客観性を持たせるためには、一般論として評価される数字があるのであれば、それを使うべきである。それを調べずに、5カ所の相対評価で行うのは理由にならない。ないなら仕方ないが、決め方が余りにも安易すぎる、1度調べていただきたい。

山の中に、何かしら動物がいると思うが。動植物について、1度調べていただきたい。

<委員>

ボーリングデータは今、色んなところで蓄積させて、参照できるようところは結構あると思うが、ボーリング調査しなくてもある程度、概算整備費の見通しは立っているのか。

<㈱エイト日本技術開発>

前回(の選定)は、近くの橋の工事のボーリングデータを参考にし、見積もりを取ったが、地盤改良が必要という結果だった。

<委員>

今回の5カ所のデータを得られそうな、見通しは立っているのか。また、調べる際は自社(㈱エイト日本技術開発)のデータを使って調べるのか。

<㈱エイト日本技術開発>

名取市さんが持っているデータをいただいて、ある程度地盤は掴めると思う。

<委 員>

土地利用（評価項目）について、使ってるか使っていないかだけでなく、どう使っているかも評価項目に入っていないと、名取市さんは使えない。例えば、候補地が決まったとして、農業をしてる土地の地権者さんに「土地売ってください」と言っても無理ですから。

<委 員>

例えば、周辺住民からの要望で、道路整備をきちっとやってくれと言われ、整備費が跳ね上がった場合、結果として費用が掛かる場所を選定したのではないかということと言われることがあるので、どこまで概算整備費を設定するのか決めた方がよい。

<事務局>

インフラのプランや取り付け道路といった費用について、個別に概算整備費として算出する予定だ。

<委 員>

各評価基準の表現で、「適正度が高い」より「適合度が高い」という言葉の方がいいのかなと思う。

<委 員>

災害危険性(津波)の評価項目について、深水深は河川氾濫等による浸水被害というのも想定しているのか、津波のみの深水深を評価するのか確認したい。

<事務局>

文言通り、津波で考えていた。

<委 員>

河川氾濫該当地域があるのであれば、何らかの対応が必要になるのでは。

<事務局>

河川氾濫地域に該当しているため、確認を進める。

(2) 今後の審議予定（案）について

資料2に基づき、事務局より説明。

以下、委員からの意見等

<委 員>

予定している日程から、早まることはないのか。

<事務局>

可能性として、前後することはある。

<委 員>

コンサルさんや事務局は現地を見たり、文献調査は入っていないのか。

<事務局>

分かる範囲で文献調査に入っている。

<委員>

普通よりもすごい時間がかかっていると思う。用地選定が遅れるだけ、工事着手が遅れて、処分場の竣工が遅れる、その分お金が出ていくことになるので、念頭に置いて取り組むべき。できるできないの問題もあると思うが、精力的にやっていただき、前倒しを考えていただきたい。